

## 平成21年度 長良川河口堰県民調査団 要約意見書

## (1) 水質・底質について

## ● 水質自動監視装置「ナガラちゃん」

**要望** 水質の監視は重要なことだと考えている。継続的な監視と水質の変化を想定した対応策の検討等をお願いしたい。

**質問** 24時間連続監視体制がとられているとのことであるが、万一、天災等の不可抗力が発生し、「採水部」等から水温、濁度、総窒素等の監視項目に異常データが測定された場合、どのような緊急対策がとられるのか。

**質問** 10項目の監視を行っているが、その結果をどのように利用するのか不明である。例えば、塩化物イオンの数値がどの数値の場合にどのような対策をとるのか、マニュアル等は設定してあるのかどうか等、他の項目についてもどう対応するのかが分からない。

## ● 長良導水

**質問** 長良川河口堰により利用可能となった水を水道用水として、知多浄水場まで導水する水質については、色、匂い、味覚等、快適水質項目を定めていると思われるが、その目標値を十分に満たしているかどうかを聞きたい。

## (2) 魚類について

## ● 長良川河口堰

**要望** アユの人工孵化の取組をしていること等、人と自然の共存ができるための良い環境づくりの重大さを痛感しており、これからもお願いしたい。

**質問** 天然のアユが産卵し、海にどれだけのものが行くのか、確認されていないのではないかと。現実として長良川のアユも琵琶湖のアユと同じように、海へ行っていないアユは大きくなっていない。体長10cm未満の子持アユが今年も大量にいる。この現実にはアユが海に行っていないのではないかと。

## (3) その他（治水対策等）について

## ● 長良導水

**意見** 河口堰によって海水の上流への侵入が阻止され、知多半島地域に安全で大量の真水を短距離で供給できることは、河口堰の大きな利点の1つであると思う。

又、取水の際には水質の管理や自然生物に配慮した工夫がされており、良いことだと思う。

**質問** 国交省水文水質データベースのデータ流況表によると、2007年の最小流量は木曾川の笠松地点で2月4日の64.57m<sup>3</sup>/sに対し、長良川の墨俣地点では12月2日の28.23m<sup>3</sup>/sになっている。少ない長良川の水を取水するために多額の経費に納得できない。わずか2.86m<sup>3</sup>/sの水は木曾川の水で十分賄えるはずではないか。

## ● 長良川河口堰

**要望** 長良川本流が満水状態で、支流河川からの排水機による排水ができないという状況はほぼなくなり、流域住民にとって安全、安心の根幹をなす重要な施設であり、適切な管理をお願いしたい。

**質問** 墨俣地点では浚渫は行われておらず、河川の形状断面積は変わっていないはずであるにも関わらず、水位が低下したとすれば、流速が速くなっていないはずならず、流速はどのように変化しているのか。

**質問** 国交省のデータベースでは、1979年以後の墨俣地点の水位状況表を見ると、水位が6m以上になったのは、浚渫完了の1997年以前は19年間で1回であるのに対し、1998年以後は11年間で2回発生しているが、これで水位低下効果があったと言えるのか。

**要望** 堰上流10kmから上流40kmの間の底質状況を調査してほしい。

**要望** 今後の管理は莫大な費用が予想されるので、人員を含めたコスト削減を考えてほしい。

**要望** 長良川河口堰や徳山ダムに対する県民の疑問や質問事項は依然として多い。河口堰調査検討会は県民調査団の意見、質問だけではなく、広く県民の疑問や意見にも耳を傾け、十分な調査、検討を行い、公表してほしい。